

第80回日本薬理学会年会開催記念市民公開講座 「喘息とつきあっていくために」を開催して

第80回日本薬理学会年会開催記念
市民公開講座世話人 鍋島 俊隆
(第80回日本薬理学会年会会長)

第80回日本薬理学会年会の開催を記念して一般市民を対象とした市民公開講座が、年会最終日である2007年3月16日(金)に年会会場でもある名古屋国際会議場にて開催された。今回は、「喘息とつきあっていくために—いきいき!らくらく!くすりの使い方」と題して、喘息に焦点を当て、名古屋大学大学院医学系研究科 分子総合医学講座(呼吸器内科学)講師の久米裕昭先生に「喘息死を減らすための患者・薬剤師・医師のパートナーシップ」を、鶴舞薬局 薬局長の鈴木嘉栄先生に「薬剤師はあなたの吸入療法をサポートしています」を、そして名古屋大学医学部附属病院薬剤部の長谷川雅哉先生に「上手な吸入のコツ」を講演していただきました。本公開講座は名古屋大学大学院医学系研究科 医療薬学・附属病院薬剤部の主催で、(社)日本薬理学会が共催、愛知県病院薬剤師会、(社)愛知県薬剤師会、(社)日本病院薬剤師会、(社)日本薬剤師会、愛知県、名古屋市に後援を頂きました。

本年会は「基礎から臨床へ」をテーマとしており、得られた研究成果を基礎分野に留まらせるのではなく、如何にして実際の医療の現場に昇華させられるか、が最終目的となっています。その様な観点から市民公開講座は、研究成果を臨床に還元し、薬の正しい使い方や副作用の防止などの適正な医薬品情報を広く一般市民に提供する場として重要な役割を果たしています。

本公開講座は年会終了後に開催され、金曜の18時から20時までという時間の制約もありましたが、約70名の方々に参加していただきました。本市民公開講座世話人である鍋島の挨拶に続き、名古屋大学医学部保健学科基礎検査学講座 教授の高木健三先生に座長をお願いし、最初に久米先生のご講演を頂きました。喘息に限らず疾病とうまくつきあっていくためには、その疾病に対しての知識(病識)を持っていないとなりません。そのために久米先生からは喘息についての基本的な知識と薬物療法—特に吸入療法—が病状を安定させるためにいかに重要であるか、そしてそれを実践し年間3,000名を超える喘息死を減らすためには医師だけではなく薬剤師や看護師を含めたチームによるケアが重要であるということをご説明頂きました。続いて、鈴木先生にご講演頂きました。鈴木先生は名古屋大学医学部附属病院からの院外処方箋を多く扱う門前薬局の薬局長であり、久米先



総合討論の風景(左から長谷川、鈴木、久米先生)



公開講座終了後に(左から久米、長谷川、鈴木、高木先生)

生や後の演者である長谷川先生らと喘息の吸入療法に関して連携を図るための「つまみ薬薬薬連携協議会」の会長も務めておられます。鈴木先生からはご自身や近隣の保険薬局で経験された喘息の吸入療法での問題点や患者様の疑問等に対して簡潔に解説して頂きました。最後の演者である長谷川先生からは名古屋大学医学部附属病院薬剤部で先生が中心となり活動されている外来患者様への吸入指導の紹介とその指導による効果についてご講演頂きました。本公開講座は一般市民を対象にしましたが、その内容は薬剤師にとっても非常に有用な内容であり、薬剤師の参加もありました。いずれの講演内容も、参加者の皆さんには大変興味の持てる内容であり、各演者による講演後の総合討論では予定されていた時間を超過してしまうほどでした。質問内容も実際に喘息を患っており悩まれている患者様からだけでなく、薬剤師からも日頃感じている疑問や自分たちの活動にどのように取り入れていくかなど多岐に渡りました。時間に限りもありましたが、座長の高木先生の見事な進行により、参加者に非常に有益な講演会であったと思っております。

最後に、本公開講座の開催にあたり、お忙しい中ご協力頂きました先生方、後援を頂きました各団体の関係者の皆様および協賛を頂きました各製薬会社の皆様、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

(文責：伊東亜紀雄)